
令和7年度

桐蔭学園 高等学校 学力検査問題

国 語

令和7年2月11日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 机の上には、鉛筆・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には、自分のマークシート冊子以外、何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、鉛筆を落したり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子の余白などは、自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 問題は29ページまであります。
7. 問題冊子は持ち帰ってください。

第一問 次の文章中の——線部 a s e のカタカナと同じ漢字を用いるものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

おおよそおわかりと思うが、広島への原爆投下に関するディベイティングにおいては、なるべく a シジョウを挟まず論理的に相手側を説得する技術が要求される。その人が本心どう考えているかは一応どうでもいい。その人の口から出る論理が説得的であることが重要である。したがって、優秀な討論者は——ちように優秀な弁護士のように——はじめは原爆投下の賛成派に属し、後に反対派の立場で語り、いずれにおいても最高点を得ることも可能である。

だが、狭義^{きようぎ}の対話、すなわち私がここでテイ b ショウしたい哲学的対話（以下、この意味の対話を「対話」と記述する）とはこうした討論ではない。みずからの生きている現実から離れた客観的な言葉の使用法はまったく「対話」ではない。「対話」とは各個人が自分固有の実感・体験・信条・価値観にもとづいて何ごとかを語ることである。だから、はじめに賛成派、後に反対派に立場を交換することはできないはずなのだ。こんなことができるのは気楽な議論だけである。広島に原爆が投下され家族が皆殺しになり、自分も今白血病で苦しんでいる人は、原爆が投下されるべきであつたか否かという討論に加わることは抵抗であろう。わが子が惨殺^{さんころ}された親は、死刑を c ハイシすべきか否かという討論に気楽に加わることはできないであろう。

もちろん、それでも彼（彼女）は死刑ハイシに賛成することもありえる。だが、その場合、その発言はそうした残酷な体験を経ている者とは異なった価値をもつであろう。彼（彼女）の言葉は自分自身の体験に裏打ちされて、 d カクダンの重みをもつであろう。こうした彼（彼女）は「対話」を e スイコウしており、その言葉の重みをそのまま受け止めて、当人に対して何ごとかを語ること、それが「対話」である。

（中島義道『「対話」のない社会 思いやりと優しさが圧殺するもの』より）

a 「ジヨウ」

- 1 自分でサクシした歌を歌う。
- 2 シヨシを貫いて目標を達成する。
- 3 式典の最中にはシゴは慎むべきだ。
- 4 シジツに基づいた小説を読む。

b 「テイシヨウ」

- 1 親に恋人をシヨウカイする。
- 2 子どもたちに対して貯金をシヨウレイする。
- 3 学問は人格をコウシヨウなものにする。
- 4 確認のために一度フクシヨウする。

c 「ハイシ」

- 1 チームはムハイで勝ち進んだ。
- 2 一国のコウハイがかかった戦いが始まった。
- 3 君のハイタ的な姿勢は感心しない。
- 4 香辛料を上手にハイゴウする。

d 「カクダン」

1 監督からゲンカクな指導をうける。

2 疲れのあまり目のサツカクにおちいる。

3 陰であれこれとカクサクする。

4 Tシャツをカクシユ取りそろえている。

e 「スイコウ」

1 ロケットがスイチヨクに離陸してゆく。

2 真夏に鍋料理とはスイキヨウきわまる。

3 その事件はミスィに終わった。

4 医師は症状から病気をルイスィする。

第二問

次の文章は、第一問の文章の著者である中島義道なかじまよしみちが同じ著書の中で、なぜ日本においては〈対話〉という行為が押しつづされてしまうのかについて考察している箇所である。この文章を読んで後の設問に答えなさい。

井上忠司いのうえただしは『「世間体」の構造』（NHK出版）において、日本人にとって「世間」の意味するところを詳細に描き出している。それは、家族や親類縁者などがかたちづくるウチとまったくあかの他人が構成するソトとの中間地帯である。具体的には、隣近所の人々、学校や会社の同僚、さらに同じ町村出身者や同じ学会に属する者など、近い他人の集まりであり、彼らは私を直接見知っていて、ほかからの情報を「私についてのこと」と※¹アイデンティファイできる。「ヘエー、あの人がねえ」

「なるほど、そういうえばこんなこともあったんだよ」とペタペタ私に次々にレッテルを貼れる立場にいる。そして、もう貼る材料がなくなると「ああ、人って恐いもんだナア。お互い、だまされないように注意しようネ」と言って快活に別れるのだ。

A 口くちさがない世間の嵐には細心の注意しか手だてがない。みんな世間に「後ろ指をさされないように」一挙手一投足に気をつけねばならない。世間の噂うわさに対して弁解してもしかたない、いやかえって逆効果である。噂が本当であるか否かより、噂になつたらもうおしまいなのである。

われわれは、① こうした無情の世間の眼に神経をすり減らし、そのぶんソトに対しては徹底的な無関心を決め込む。世間相手にあまりにも配慮するので、そのソトまで配慮したら、パンクしてしまうのだ。もう、配慮のキャパシティは限界なのである。

電車内で、眼の前で喧嘩けんかが始まろうが老人が倒れよう何が起ころうが絶対的に無関心、座席にうずくまり眠った振りをし続ける男が、上司が近くに立っていることに気がつくや、駆け寄って席を譲り、鞆かばんを網棚の上に乗せるのを手伝い、相手のバカ話に相槌あいづちを打ち……と卑屈なほど親切の限りをつくす。

このコントラストはみごとなものである。あかの他人がいくら困窮していても痛くも痒くかゆもないが、会社の上司や隣の奥さんだと無視できない。こうした適当に近い他人こそが世間をかたちづくっており、彼らの評価こそわが身にとって最重要であるからだ。

現代日本人は「他人にかかわりたくない」という強烈な願望をもっている。それは、世間に対する過度の配慮の裏返し現象である。世間の岩のような重圧をよく知っているゆえに、あかの他人があらたに世間に参入してくること、自分の行動を追跡観察する眼が一つ（二つ？）増えることを全身で警戒するのだ。

だから、多くの日本人は見ず知らずの者から助力されることを嫌う。日本語では「済みません」とか「申し訳ありません」のように、「感謝の表現と心苦しさの表現がいつしよになっている。他人から恩_{そえ}行為をうけたひとは、相手にむかって、感謝と心苦しさを同時にいう」（副田義也『日本文化試論』新曜社）のである。他人に助力されて「心の重荷」を背負い込むより、少々辛抱しても自分で重い荷物を運んだほうがラクなのだ。

こうして、われわれの行動すべてを根底で動かしているものは、——けっして「日本的まごころ」ではなく——身体の隅々まで浸透している「^②日本的自己保存欲」である。

わが国では、ウチにおいてもソトにおいても中間地帯としての世間においても、他者と正面から対立する場がない。自分と他者との（微妙な）差異を正確に測定したうえで、その差異を統合しようとする場（ここに〈対話〉が開かれる）が完全に取られれているのだ。ウチのみならず世間とソトを含む世界は自分と対立の生じえない世界であり、この意味で自我の拡大形態なのである。

〈対話〉は対立のないところでは育たない。対立を大切にすると社会、互いの差異を正確に測定しようとする社会でなければ死んでしまう。倫理学者 R・M・ヘアは「一般化 (generalization)」と「普遍化 (universalization)」とを分けている。前者は自分の価値観や規範意識をそのまま拡大する作用であり、後者は異質の価値観や規範意識を統合しようとする作用である。言うまでもなく、前者ではなく後者こそ〈対話〉を活かし育てる概念である。

「他人の痛みのわかる人になろう」というスローガンに異存はない。だがこの国では、この標語が「自己の痛みの拡大形態として他人の痛みをわかる」という図式になりやすいのだ。これは危険な思想である。なぜなら、自己の痛みの延長としてしか他人の痛みを理解できないことになるから。私がつらいとき他人もつらいであろうとまでは言えるが、私がつらくないときでも他人はつらいかもしれない、という発想にはなりにくい。いじめが起ると「自分がされたらどんなにっらいか考えなさ

い」というお説教ばかり聞こえる。そうではないのだ。自分がつらくない些細な^{ささい}ことでも他人はつらいかもしれないのである。自分とは感受性がまったく異なっているかもしれないのである。だから、③「他人の痛み」をわかるのはじつはたいへんなことなのである。

私は（二章であつかった）アアセヨ・コウセヨという放送や管理標語が虫酸^{むしず}が走るほドイヤであるが、この痛みをわかつてくれる人は少ない。とくに、善良な人ほどわかつてくれない。善良な市民は、官僚や銀行のスクヤンダルには心底怒り、誘拐事件が起きたら率先して自衛団を組織し、地震が起きたらボランティア活動をするかもしれない。しかし、彼らこそ寿司屋やそば屋で「あつ、日本シリーズの時間だ。テレビつけてくれ」と当然のように要求するのだ。そして、それを見たくない客がいることなどまるで眼中にないのである。

しかも、彼らは他人の痛みがわかると思ひ込んでいる。④「こうした御仁^{ごにん}がいちばん（対話）を拒否しているのだ。

まとめてみよう。（対話）とは他者との対立から生まれるのであるから、対立を消去ないし回避するのではなく「大切にす

る」こと、ここにスベテの鍵がある。

だが、他者との対立を大切にしようにと教えても、他者の存在が希薄な社会においては何をしたいかわからない。そうなのだ、本当の鍵は他者の重みをしっかりとらえることなのだ。他者は自分の拡大形態ではないこと、それは自分と異質な存在者であること。よって、他者を理解すること、他者によって理解されることは、本来絶望的に困難であることをしっかりと認識すべきなのである。

われわれ聡明な日本人は、じつはこんなことは頭^{こゝろ}ではよく了解している。しかし、（とくに公^{おおやけ}の席では）他者との摩擦がまったくないかのような、みんな心が通じ合っているかのような、つまりあたかも他者がいないかのような態度をごく自然にとるのだ。

これはみずから信じていないことを語る自己欺瞞^{ぎまん}である。（対話）はこうした欺瞞的態度の出現とともに消えてゆく。そこに、すべての人が全体を配慮し、自己の痛みを語らず、他者との差異を語らない淀んだ^{よど}和やかな空気が流れる。この空気の中で、おそろしいことに、各人は自分の考えをもたなくなる。責任をもたなくなるのだ。

⑤この空氣の威力は圧倒的である。表向きみんなに同調しているだけだ、おれ（私）はあくまで自分の信念は貫くのだという姿勢も、この空氣をすっているうちにしだいしだいに本人の氣がつかないところでは内部から崩れてゆく。「からだ」がこの「和の空氣」にすっかり馴染なじんでしまうのだ。「からだ」がこの空氣を求めてしまうのだ。「からだ」がこの空氣が支配していないところでは不快になるのだ。そして、いつか氣がついてみると「からだ」が「対話」を拒否している。個々人の微妙な対立を受け止めなくなっている。「対話」を求める個人の叫びを殺しているのである。

〈他者〉を消去することによって〈対立〉を消去するという二重の操作を別の視点から言いかえると、われわれ日本人は各人が個人として他者に向き合うという「個人主義」を全身で拒否してきたということである。

本書の意図からして、私は個人主義をここで大々的に論じるつもりはない。たいへん精緻な議論がなされている領域であるが、ここではルイ・デュモンの『個人主義論考』（言叢社）やそれを批判的に継承する作田啓一さくたけいちの『個人』（三省堂）などをたよりに、そのアウトラインをたどるにとどめよう。

われわれが今日使っている「個人主義」は西洋近代で生まれた。それは、それまで世界のどの地域でも見られた「世俗から離れ神あるいは自然との交わりの中で独りだけで暮らす」という「世俗外個人」の思想とは一線を画する斬新なものである。西洋近代の個人主義の柱は二つある、と言われている。「一つは、……キリスト教からやってきて宗教改革において再び燃え上がった個人の至上価値という觀念。もう一つは、交換によって支配される経済システムの出現である」（作田啓一『個人』）。西洋近代型個人主義は、この二つの柱をもつ「世俗内個人主義」という独特のものである。

作田はデュモンを批判して、次のように言う。

……世俗外個人は世俗界に入り込むことにより、俗臭をある程度吸い込まざるをえない。それは功利主義という俗臭である。デュモンは世俗外個人が世俗内個人へと無償で移行したかのように語るけれども、じつはそうではなかったのだ。個人主義にはいつも功利主義の影がつきまといってくるのである。

（作田啓一、前掲書）

⑥ わが国における「個人主義」という言葉の使われ方を反省するとき、作田のこの指摘は重要である。つまり、この国においては、個人主義を「個人の尊重」というキリスト教起源の思想を強調して理解しがちである。だが、個人主義は個人の自己利益追求という功利主義の原理でもあるのだ。自己利益を最大限に求める理念において、個人主義は※² エゴイズムと区別がつかない。ここをしつかりおさえることが肝心である。

個人主義における他の個人を尊重するというスローガンも、けっして抽象的なものではない。それは、すべての個人が自己利益を求めたら、そこにルールを確立しなければ大戦闘状態がいつまでも続き、※³ パラドクシカルなことに大多数の個人にとって自己利益を求めるといふ理念に反することになる、というたいへんわかりやすい考えである。これが、作田の言う「世俗内個人主義」にまわりつく「俗臭」である。

よって、西洋近代型個人主義の骨子は「自分の利益を最大限に求めよ、しかしルールに違反したら責任をとれ」というかたちにとめられる。だが、わが国では、個人主義は崇高なもの、エゴイズムと反対のものという教えられ方をする。そして「勝手なことをしてよい。しかし責任をとれ」とは教えられず、はじめから「勝手なことをするな、他人に迷惑にならないように振る舞え」という行為の規制原理として働きがちである。

だが、事態はもう少し込み入っている。⑦ たけうちやすお 竹内靖雄は「自己利益を最大限に求める」という個人主義の根っこに着目して、西洋近代型個人主義である「強い個人主義」に対して日本型個人主義を「弱い個人主義」と呼んで両者の異同を比較している。

強い個人主義

- (1) 利益の追求に集中する。
 - (2) 他人との関係において攻撃的で、競争指向的になる。
 - (3) 市場を利用する。すなわち、市場ゲームの個人プレーヤーとして生きようとする。
- 弱い個人主義
- (1) 不利益の回避を重視する。

(2) 他人との関係において防衛的で、競争回避的になる。

(3) 集団を利用する。すなわち、個人はまず集団に所属し、その集団が市場のプレーヤーとなる。

竹内によると、われわれ日本人も個人主義者であるが、日本的風土に育った個人主義という樹は、西洋近代型個人主義とはまったく別種の樹のような外形をしている。「弱い個人主義」は自己利益の追求において、まず集団を利用し、集団に依存することを重視するので「集団主義 (tribalism)」と呼ばれる※⁴。ソシオグラマーを發達させる」。つまり、日本的集団主義も「自己利益を最大限に追求する」かぎり個人主義の一種なのであるが、ただその個人が圧倒的にひ弱なのだ。

「弱い個人主義」には「弱い自己責任」が呼応している。この言葉を使うと、わが国の「弱い個人主義」がアノ膨大な管理放送・管理標語を産み出しているとも言えそうである。全体を配慮した個人主義というと聞こえがいいが、「弱い個人主義」は徹底的にマジョリティを擁護し徹底的にマイノリティを排除する。そして、人々を沈黙させ、疑問を抱かせなくし、とりわけ個人固有の思考を、生き方を奪ってゆく。



個人主義を教え込まれた国に、なぜに「守ろうよ、私の好きな街だから」などという全体主義的な管理標語が まかり通っているのであろうか。「私はこんなことを宣言した覚えはない」という疑問や批判が各自の中に湧かないのであろうか。

答えは、もう与えてある。われわれの取り入れたのは洋風の個人主義ではなく和風の個人主義だからだ。弱い個人のための弱い個人主義だからだ。「個人主義」という字面 だけ同じで、中身はすっかり別のものだからである。

次第に見えてきたことであろう。^⑧この「和風個人主義」が〈対話〉をきわめて巧妙な仕方であらう。

現代日本人——とくに上に立つ者——はけっして頭から個人主義を否定しはしない。個人主義をプラスの価値と見ている。しかし、同じ言葉を使っている、その内実を巧妙にわが風土に合わせて変質させているのだ。

こういうことである。政治家も評論家も先生も親も学生も生徒も社長も社員も〈対話〉の重要さを認めている。自己決定・自己責任の重要さを認めている。みんな、日本人の幼児性や非個性的なこと、「自分がないこと」を嘆いている。しかし、本当のところ嘆いてはいないのだ。「自分がないこと」こそ、じつは自分が望んでいることなのである。言いかえれば、だれも彼もが自分はじつは「和風個人主義」を望んでいるのに、「洋風個人主義」を望んでいる振りをする。自分はじつは日本的風土に合った「会話」を望んでいるのに、〈対話〉を望んでいる振りをするのだ。

私は、これこそいちばんの罪であると考えている。校長先生が朝会で「みなさん、前後左右の他人のことをよく見て、あまりそれに反することはしないようにしましょう」とか「自分だけで決めることはあとで責任をとらなければならず、損だからやめましょう」と語りかけるのなら、彼(彼女)は自分の言葉や行為に誠実だと思う。社長が入社式で「優等生ではなく型破りな者や野人を求む」と言うのではなく「日本的風土に合った型破りな者やみんなに迷惑かけない野人を求む」と言えば、やはり納得がゆく。しかし、だれもこうは言ってくれない。

こうして、西洋起源の言葉はことごとくこの国では二重の意味を担いながら、「本来は……、しかしじつは……」という精緻なダブルスタンダードを築いてゆく。しかも、ほとんどの者は自分が巧妙なトリックをしかけていることに気づいていない。自分はまったく一元的な真理を語っているつもりなのである。

「対話は必要です。だが、そんなに相手を追いつめちゃ駄目だよ。相手に逃げ場を与えなければ」とか「対話は大切だ。でも、自分のことばかり主張しちゃだれも聞かないよ。それぞれ立場とかメンツがあるんだから」とか「私は対話を拒否するつもりはない。しかし、きみのものの言い方があまりに無礼だからもう聞きたくない」等々の「論理」を振りかざして、丁重に巧妙にズルク〈対話〉を根こそぎにするのである。

(中島義道『〈対話〉のない社会 思いやりと優しさが圧殺するもの』より)

(注) ※1 アイデンティファイ…識別する。

※2 エゴイズム…利己主義。

※3 パラドキシカル…矛盾した。

※4 ソシオグラマー…個人の行動を無意識のうちに規定するもの。

問1 〓線部A「口さがない」、B「まかり通っている」の意味として最も適切なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 「口さがない」

- | | | | |
|---|------------|---|-------------|
| 1 | 言うことに根拠がない | 2 | 言うことに遠慮がない |
| 3 | 言うことにきりがない | 4 | 言うことに現実味がない |

B 「まかり通っている」

- | | | | |
|---|-----------|---|---------------|
| 1 | 標準になっている | 2 | 惜しげもなく用いられている |
| 3 | 堂々と使われている | 4 | 重要視されている |

問2 ―線部①「こうした無情の世間の眼」とありますが、これはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 会社の上司や隣の奥さんなど、日頃世話になっていて無視できないような存在である人々によって形成される、自分に対する厳しい評価のこと。
- 2 全くのあかの他人と家族や親戚たちの中に属するような、近い他人の集まりによって問答無用にかたちづくられる自分の人物像のこと。
- 3 家族や親戚ほど近い関係ではないが、同じ学校に所属する人々など、自分をよく知っている者たちが自分に向けてくる無神経な興味関心のこと。
- 4 家族や親戚とはほど遠く、むしろあかの他人といってしまうような人々からの、自分に対して寄せられてくる無秩序なまでの好奇心のこと。

問3 ―線部②「日本的自己保存欲」とありますが、これはどのような考え方のことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 見ず知らずの存在であるあかの他人から助力されることで、感謝と心苦しさがともに入り混じった複雑な気持ちを抱くことを嫌悪するような日本人特有の考え方のこと。
- 2 見ず知らずの人々からの助力を拒否することで、他人から受けた恩義は返さなければならないという世間からの重圧をかわそうとするような日本人特有の考え方のこと。
- 3 世間の人々の噂話^{うわさ}は、それが流れることで自分が破滅に追いやられてしまう可能性が高いために、せめてあかの他人だけは世間の中に入れさせまいとするような日本人特有の考え方のこと。
- 4 世間の人々の目が増えることで、自分が警戒すべき行動や範囲が増えることを避けるために、あかの他人からの助力を遠慮するような日本人特有の考え方のこと。

問4 ―線部③『他人の痛み』をわかるのはじつはたいへんなことなのである」とありますが、日本において特にこのことが「たいへん」なのはどうしてですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 日本においては、他人の痛みを自分の痛みの延長としてしか理解できない。したがって自分がつらいと感じることは他人もつらいはずであると感じるように、自分と他人の感受性が同一化して他人の痛みという見方そのものがそもそも存在しないから。

2 日本においては、他人と真っ向から対立する場が存在しない。したがって自分と他人との価値観の違いを認識することが困難であり、自分が痛みを感じないことに對して他人が痛みを感じるかもしれないということを想像する習慣が人々のなかにないから。

3 日本においては、世間の中で他人との差異を感じる場が存在しない。したがって対立を大切にするような他国の社会とは違って自分の価値観をそのまま他人に對してあてはめてしまい、自分の痛みは他人の痛みでもあるという勘違いが、人々のなかにおきるから。

4 日本においては、自己の痛みの拡大形態としてしか他人の痛みをとらえることができない。したがって、他人の痛みを作り出す価値観や規範意識が自分と對立しているとは考えず、まずは人々が互いの差異を正確に測ろうとするところから始める必要があるから。

問5 — 線部④「こうした御仁」とありますが、これにあてはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 自分は他人の痛みがわかる人間であると決めてかかる人。
- 2 地震が起きたら積極的にボランティア活動に加わりそうな人。
- 3 誘拐事件が起きたら人をつのつて自衛団を組織しそうな人。
- 4 テレビで日本シリーズの中継を見ながら食事をするのが好きな人。

問6 — 線部⑤「この空気の威力は圧倒的である」とありますが、「この空気の威力」によってもたらされることについて
の記述として不適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 個人の考えの違いから生まれる対立を排除すること。
- 2 個人をとりまく全体をうまく同調させること。
- 3 自分と他人とのつながりを希薄化すること。
- 4 自分自身の考えや信念を見失わせること。

問7 — 線部⑥「わが国における『個人主義』」とありますが、その考え方として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 個人のもつ価値は崇高なものであるから、それをむやみに侵害してはならないという考え方。
- 2 個人の尊重と、功利主義の原理に根ざしたエゴイズムを同一視するという考え方。
- 3 すべての個人は、自分の経済的な利益を一定の制限のもとに追求してもかまわないという考え方。
- 4 すべての個人が自己の利益を追求するという前提で、すべての他者を尊重するという考え方。

問8 — 線部⑦「竹内靖雄^{たけうちやすお}は『自己利益を最大限に求める』という個人主義の根っこに着目して、西洋近代型個人主義である『強い個人主義』に対して日本型個人主義を『弱い個人主義』と呼んで両者の異同を比較している」とありますが、筆者は竹内靖雄の述べている「弱い個人主義」がどのような問題を引き起こすと考えていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 日本の個人主義の中では個人が所属する集団が、市場における競争の中でのプレーヤーとなっているため、個人単位においては競争力を持たず、どんどんひ弱になっていってしまうという問題を引き起こす。
- 2 日本の個人主義の中では個人が利益追求の競争に参加する際にまず集団に所属し、その集団の利益を優先する伝統があるため、結果的に多数派が少数派を排除する習慣につながっていってしまうという問題を引き起こす。
- 3 日本の個人主義の中では個人が自己の利益を追求するときに集団に依存するため、何の疑問ももたずに集団に従属することで個人特有の考え方や生き方ができなくなってしまうという問題を引き起こす。
- 4 日本の個人主義の中では個人は自己の利益の追求に集中するため、同じような人間が集まる集団の中で個人が他人に対して配慮することができなくなってしまうという問題を引き起こす。

問9 文中の空白部 ★ に、次の各文を並びかえて意味が通るようにした場合、並び順が最も適切なものを後の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- a しかも、このことに人々は気づかないのである。
- b この差異を正確に自覚しているあいだは安全である。
- c 同じ「個人主義」という言葉を使っている、欧米とわが国とではその言葉の内実が違う。
- d だが、困ったことに、われわれは学校で欧米本来の意味を学び、それをタラコ・スパゲッティのように和風に味つけをかえて、適用している。

1	a	↓	b	↓	d	↓	c
2	b	↓	d	↓	a	↓	c
3	c	↓	b	↓	d	↓	a
4	d	↓	a	↓	b	↓	c

問10 —線部⑧「この『和風個人主義』が〈対話〉をきわめて巧妙な仕方です。窒息させるのである」とありますが、筆者は「和

風個人主義」のどのような点をさして「きわめて巧妙」であると考えていますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 現代日本人のうち、上に立つ立場の者たちは、個人主義を大切な価値観であるとしながらもその内容を日本の風土に合わせて無個性であたりさわりのないものに変質させてきた。しかしそのようなことを人々にさとらせずに、西洋的個人主義をよそおった日本的個人主義を静かに拡大させてきた点。

2 ほとんどの日本人は本来の西洋的個人主義の良さを認めているが、本当は自分の言葉や決定に責任をとりたくないとも考えている。したがってそのバランスをとるために、表面的には西洋的個人主義の価値観をよそおいながら、日本の風土に合った日本的個人主義の心地よさにとどまろうとしている点。

3 日本の大多数の人々は、西洋的個人主義にもとづく〈対話〉が重要であると認めているが、同時にまだ〈対話〉に耐えられる自己がないことを内心では自覚している。したがってそのようなひ弱さに向き合うことを回避するために、日本人に合うのは弱い個人のための和風個人主義であると、論点をすり替えてきた点。

4 日本人の多くの者が、内心では個性的な自己のぶつかり合いを前提とした西洋的個人主義ではなく、自分と価値観を同じくした集団の中で無個性に生きる日本的個人主義を望んでいる。しかしそのような本心をほとんど自覚せずに西洋的個人主義に由来するような〈対話〉の重要性を主張している点。

第三問 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

※1 甲州^{こうしゅう} ※2 武田信玄^{たけだしんげん}の家臣^{はらはやとのすけまさかつ}、原隼人^{はらひさひと}佐昌勝^{さかつ}は、加賀守昌俊^{かがのかみまさとし}が子なり。父、甲州高島^{たかばたけ}といふ所より出でて、信玄に召し使はれ度々の勲功をあらはしけり。

子息隼人佐に教へけるは、「鳥獣虫の類ひまでのおの一つの得手^{えて}あり。一芸なき者はこれ無し。いはむや人と生まれ、こゝとさら侍^{さむらひ}たらむ者は、弓矢の事につけては一つの得手をよく鍛錬して、これをもつて主君の所用に立て、御恩を報じたまつるべし。いたづらに俸禄^{ほうろく}をたまはり、飽くまで食らひ暖かに着て、邪欲を構へ義理を知らず、一芸一能もなき者は畜生にも劣りて、これは天地の間の大盗賊なり。日月雲霧草木まで各々みなその益あり。無芸無能にして、人のため益なくかへつて害になる者あり。構へてよく心得よ」と①遺言^{いごん}せしとかや。

されば父が後に信玄に仕へて、忠節私なく軍功の誉れあり。その中に隼人はいつも諸軍に先立ち、敵国に深く働き入り、時には陣取りの場を見立て、合戦の場を考へ、山川谷峰知らぬ所を案内者もなくてこれを悟り、道筋小道までもみな踏み分けて、先頭をいたすに終に過^{つひ}ちなく、諸侍みな疑ひを残さずとなり。他国といへども陣所戦場よく見立て、裏道、水の手を考ふるにさらに過ちなき事、神に通ぜしかと②人々みな怪しみ思ひけり。

原加賀守の妻は辺見^{へんみ}の某^{なにかし}が娘なり。加賀守は諸方に馳せ向かひ、陣中に日を渡り月を重ね、③家にある事まれなり。その家は※3上条^{かみじょう}の地蔵堂^{ちざうだう}の辺りにあり。ある時、妻産に臨みしが、はなはだ苦しみ悩みて終に※4はかなくなりしを、加賀守大いに嘆きながらすべき様なく、※5法成寺^{はふしやうじ}の後ろに埋みて、塚の主となしけり。妻その死する時、法成寺の地蔵堂に向かひ手を合はせ、「年月日頃念願したてまつる。構へて本願誤りたまふな」とて、地蔵の※6宝号^{ほうごう}を唱へて終はりぬ。

加賀守も同じくこの菩薩^{ぼさつ}に帰依^{きえ}して、妻が※7後世^{ごせ}導きたまへと祈りしに、死して百ヶ日といふ夜半ばかりに、八十ばかりの老僧^{らうそう}、眉に八字の霜を垂れ、鳩^{はと}の杖^{つゑ}にすがり、水晶の数珠^{じゆず}つまぐり、加賀守が家の戸を叩きたまふ。開きて見れば、死したる妻蘇^{よみがへ}り、老僧に連れられて来たり。大いに怪しみながら内に入れて、「④さて、老僧はいかなる人にてましませば、かくあり難^{がた}き御事ぞ」と問ひければ、「我は法成寺の内に住む者なり。今宵※8あからさまに堂より出でしかば、塚にはかに崩れて

内より女房の出でたり。何者ぞと問へば、加賀守が妻と言ふ。このゆえに連れて來たる。よく保養せよ」とて、かき消すごとくに失せたまふ。⑤不思議の事に思ひ、人を遣はして見れば、塚は崩れてあり。

さてはとて、粥^{かゆ}など食はせけるに、初めはうとうとして、物の覚えなきがごとし。やうやく七日のうちに日頃のごとくなりしかども、ただ⑥明らかなる所を嫌へり。次の年男子を産めり。この子三歳の時、妻、ある日の暮れ方、涙を流して言ふやう、「我はまことは人間にあらず。君といまだ縁深かりしゆへに、上条の地藏菩薩、※9冥官^{みやうかん}におほせて、魂を許し放ちて、三年この方の契りを結ばせたまへり。今は縁すでに尽きはべり。暇^{いとま}たまはりて帰るべし。あなかしこ、我が塚を捨てたまふな。跡よくとむらひたまへ」とて、子をば置きながら、行き方なく失せにけり。塚を見れば、崩れたりとおぼえしは幻にて、草^{ぼうぼう}茫々として生ひ茂れり。⑦地藏菩薩の御方便、※10申すもおろかなり。

信玄、この由聞き及びたまひて、法成寺の地藏堂を作り改め、供養^{くやう}をとげたまふ。それより、加賀守再び妻を迎へず、かの男子は「★」なり。十八歳にて初陣^{ついでん}せしより、よろづ神に通ぜしごとく、奇特^{きとく}の事多かりしも、仔細^{しさい}ある事なり。

《伽婢子^{おとぎばうこ}》より）

※1 甲州：現在の山梨県にあたる。

※2 武田信玄：戦国時代の武将。

※3 上条の地藏堂：現在の山梨県甲府にあり、稻積^{いなつみ}国母地藏菩薩という仏をまつた建物のこと。

※4 はかなくなりし：死んでしまった。

※5 法成寺：上条の地藏堂のことをこのようにも呼んでいる。

※6 宝号：仏の名前のこと。

※7 後世：あの世。

※8 あからさまに：少しの間。

※9 冥官：あの世の役人。

※10 申すもおろかなり：言葉では言いつくせないほどである。

問 1 ―線部①「遺言」について、次の各問いに答えなさい。

i これは誰から誰への遺言ですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 昌俊まさとしから昌勝まさかつへ

2 昌俊から信玄しんげんへ

3 昌勝から昌俊へ

4 昌勝から信玄へ

ii 遺言の内容として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

1 無芸無能なせいで世のことわりを乱し、動物にも劣るような存在にならないように努めなさい。

2 どのような能力でもよいから何か一つでも秀でる力をもって、主君につくすように努めなさい。

3 自分の得意な武芸の技を磨いて、その技を主君のための戦いの場で発揮できるように努めなさい。

4 今のままでは主君からの俸禄ほうりくを盗むに等しいので、せめて弓矢の技だけでも身につけるように努めなさい。

問2 ―線部②「人々みな怪しみ思ひけり」とありますが、「人々」は「隼人佐」はやとのすけのどのような点についてそう思ったのですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 敵国の領土内であるにもかかわらず、いつも自軍の先頭で必死に戦い、複雑に入り組んだ地形の中でも決してあせらなかった点。
- 2 敵国の領土内であるにもかかわらず、いちはやく敵国の中に深く侵入してその地形や様子を探り、得た情報をもとに合戦を有利に進めた点。
- 3 敵国の領土内であるにもかかわらず、その山や川や谷という地形を上手に利用して合戦を有利に進め、ついには一度も負けることがなかった点。
- 4 敵国の領土内であるにもかかわらず、自軍を率いるのに迷いがなく、行ったことがないはずの場所の地形を利用した戦略にも秀でていた点。

問3 ―線部③「家にある事まれなり」とありますが、これはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 加賀守はあちこちを転々として戦に参加していたため、出産で苦しんでいた妻のためにしてやれることがほとんどなかったということ。
- 2 加賀守の妻は戦で各地を動き回っていた夫に常に付き従っており、夫婦そろって家にいることがほとんどなかったということ。
- 3 加賀守の妻は出産のために実家の辺見家へんみに戻っており、戦で自分の領地を離れることができない夫と一緒に暮らせる時間かんがほとんどなかったということ。
- 4 加賀守は主君である武田信玄のもとで長い間戦いに参加しており、日頃は自宅で妻と暮らすことがほとんどなかったということ。

問4 ―線部④「さて、老僧はいかなる人にてましまして、かくあり難^{がた}き御事ぞ」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 それで、お坊さまはどのような能力をお使いになって、死んだはずの妻をありがたくも生き返らせてくださったのでしょうか。
- 2 それで、お坊さまはどのような方でいらっしゃって、死んだはずの妻を生き返らせるようなあり得ない出来事が起きるのでしょうか。
- 3 いったい、お坊さまはどのような魂胆をお持ちになって、死んだはずの妻を生き返らせるような恐ろしい出来事を起こしたのでしょうか。
- 4 いったい、お坊さまはどのような権利がおりになって、死んだはずの妻を生き返らせて引き回すようなむごい事をなさるのでしょうか。

問5 ―線部⑤「不思議の事に思ひ」とありますが、どのようなことを不思議に思ったのですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 死んだはずの妻が法成寺の墓の中から生き返って、そのまま老僧に連れられて自宅へと戻ってきたことや、さらにはその老僧がその後あとかたもなく消え失せたこと。
- 2 死んだはずの妻が日頃帰依^{きえ}していた徳の高い老僧の法力によって死の世界から生き返ったことや、妻を自宅に連れてきた老僧が自分に妻を託すやいなや、その瞬間に姿を消してしまったこと。
- 3 死んだはずの妻が法成寺にある墓の中から生き返り、老僧に連れられて自宅に戻ってきたことや、その後妻の話を聞いて墓を調べると、その墓が掘り返されたように崩れていたこと。
- 4 死んだはずの妻が死の世界から生き返り、法成寺からきた徳の高い僧に連れられて自宅へ戻ってきたことや、その老僧の話を聞いて妻の墓を調べさせると、墓があとかたもなく消滅していたこと。

問6 ―線部⑥「明らかなる所を嫌へり」とありますが、これはどうしてですか。考えられる理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 あの世界から生き返った妻は、外に出ることから人々から好奇の目にさらされることを避けるために、日中に関しては夫以外の人に対して姿を見せないようにしていたから。
- 2 墓から蘇よみがえった妻は、あの世界での生活によってすっかり衰弱しており、そのうえ長い間土の中にいたことで太陽の光に対する肉体の耐性が失われてしまっていたから。
- 3 始めのうちは、自分がなぜ夫のもとに帰って来られたのかを理解できなかった妻は、やがて自分が光のない暗闇の世界から生き返った存在であることに気づいたから。
- 4 老僧に連れられて夫のもとに帰ってきた妻は、一度は死んだものの、墓の中から出てきた身であって本当の人間とはいえず、生前とは異なり太陽の光を苦手としていたから。

問7 — 線部⑦「地蔵菩薩ぼさつの御方便はうべん」とありますが、これはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 信心深かった加賀守の妻のために、死んでしまったことで別れることになった子どもを育てられるように、三年間だけ生き返らせてくれたこと。
- 2 信心深かった加賀守夫妻のために、みやうかん冥官にお願いして三年間の猶予期間をもらい、その間に夫妻が子どもをもち、妻が成仏できるようにしてくれたこと。
- 3 信心深かった加賀守の妻のために、その体を三年の間だけ生き返らせて、愛する夫と一緒に暮らして、子どもをもてる時間を与えてくれたこと。
- 4 信心深かった加賀守夫妻のために、戦でほとんど家にいなかった加賀守と仲むつまじく暮らしたかったという生前の妻の願いをかなえてくれたこと。

問8 文中の空欄【★】に当てはまる人物として最も適切なものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 加賀守昌俊
- 2 武田信玄
- 3 地蔵菩薩
- 4 原隼人佐はらはやとのすけ

問 9 次の各記述のうち、この話の内容と一致しているものを二つ選び、その番号をマークしなさい。

- 1 加賀守の妻は生き返ってから三年たった後、その子どもを置いたまま自ら墓の中へと戻っていった。
- 2 武田信玄は、戦の功績がめざましい加賀守親子へのほうびとして、加賀守の妻が埋葬された地蔵堂を新たに建て直した。
- 3 加賀守昌俊は、子の隼人佐に弓矢の技術を厳しく教え込んだ。
- 4 加賀守昌俊の妻は、生前に子どもを一人産んだが、その時の体の負担が重くて死んでしまった。
- 5 加賀守昌俊の子の隼人佐は、若い頃は父ほどの功績をあげることではできなかった。
- 6 加賀守昌俊の子の隼人佐は、周囲の人々から、特殊な才能の持ち主であると考えられていた。
- 7 地蔵菩薩の化身と思われる法成寺の老僧は、一時的にはあるが加賀守の妻をこの世に戻すことにした。